

平成30年度

東濃地区教育推進協議会指定研究発表会

研究主題

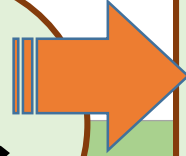
生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、
一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

恵那市立恵那西中学校

主題設定の理由

変化が著しく
予測困難な21世紀



自ら課題を発見
知識及び技能を活用しながら
他者と協働し課題解決していく力

課題解決のために
主体的に学習したことを活用し他者と協働して探究し続ける
ことができる生徒の育成を図りたい

研究主題
副主題

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、
一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

授業で生み出したい姿

<主体的・対話的な姿>

- * 課題をつかみ，**目的意識**や**見通し**・**願い**をもって，**学習活動**に取り組む姿。
- * 課題に対する自らの考えを**明確**にもち，**他者との学び**から**考えを広げ深め**，**自己の変容**を**自覚**できる姿。

<課題解決できる姿（深い学び）>

- * **基礎的・基本的な知識及び技能**を活用しながら，**自らの思考力**，**判断力**，**表現力**等を働かせ，**課題を解決**する姿。

昨年度までに明らかになった課題

- 学習内容の系統をもとに，「何をできるようにしたいか」，「どんな見方・考え方を働かせるのか」を明確にし，単元構想をさらに練る。
- 必然性のある課題を設定する。さらに，対話させる対象を何にするかを考え，教材・教具や学習形態などを工夫する。
- 「どの場面で」「どのように」教師が評価をするのか明確にする。

研究内容 1

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・ 教科で働かせる **見方・考え方を踏まえた単元を貫く課題**を設定し、**相互的なつながりのある単元構成**を工夫する。
- ・ 社会生活や生き方への活用を促す、**単元出口の授業**を位置付ける。

単元構成の工夫

教科の見方・考え方を踏まえた**単元を貫く課題**の設定

社会生活や生き方への活用を促す**単元出口の授業**を位置付ける

育てたい**資質・能力**を明確にする

※評価規準は、**4観点**

3 単元構想図 “Lesson3 The Ogasawara Islands” (全13時間) ●:「習得」 ★:「活用・探究」

【単元の指導目標】恵那市にあると良い施設を考え、なぜそれがあると良いか理由を明らかにして、未来形や接続詞 that などを含む英文を正しく用い、与えられたテーマについて自分の意見や主張を5～6文程度で話すことができる。

【学習の系統】中1: Lesson6 “My Family” おすすめの部屋、町、食べ物について三単現を含む英文を正しく用い、3～4文程度で話すことができる。

第1時●【意欲・関心・態度】※本時
恵那市にたくさんの人が住んだり訪れたりする為の考えを交流する活動を通して、既習表現を用いて、恵那市にどんな施設ができると良いか1、2文程度の英語で話すことができる。

第2時●【知識・理解】
アースフェスティバルのポスターを見ながら、助動詞 will の形と意味を理解することができる。

第3時●【知識・理解】
アースフェスティバルでの会話を読みながら、be going to の形と意味を理解することができる。

第4時●【知識・理解】
アースフェスティバルでの会話を読みながら、接続詞 that の形と意味を理解することができる。

I am going to visit my friend tomorrow.
I think that the book is interesting.

第5時★【表現】
自分がお勧めする観光地の情報や特徴を伝える活動を通して、未来形を正しく用いて話すことができる。

第6時★【表現】
どの観光地がお勧めかを伝える活動を通して、接続詞 that を正しく用いて話すことができる。

第7、8時●【理解】
小笠原諸島について読むことを通して、島民の願いや意見を理解することができる。

I'm going to tell you about Iwamura. I think Iwamura is good because we can see old streets.

第9時★【表現】
ALTや教師の恵那市に関する意見を聞いたり、読んだりすることを通して、自分の意見をもち、キーワードを用いて仲間に伝えることができる。

第10★【表現】
仲間と話し合う活動を通して、誰もが行きたい恵那市の観光地や恵那市について、仲間の意見を聞いて同意したり、反応したりすることができる。

第11、12時★【表現】
仲間と話し合う活動を通して、誰もが行きたい恵那市の観光地や恵那市について、仲間の意見を聞いて、接続詞 that を用いて自分の意見を話すことができる。

I'm going to tell you about a wonderful Ena city. I think a movie theater is good for Ena. Do you go to Aichi for watching movies? If we have it, we can see new movies in Ena! I think that people will like it.

第13時★【表現】
誰もが行きたい恵那市について5～6文程度で話すことができる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力】	【意欲、関心、態度】
未来を表す助動詞 will や be going to、思いや意見を伝えるときに使える接続詞 that の形・意味・使い方を理解することができる。	誰もが行きたい恵那市について、情報や理由などの自分の意見を未来形や接続詞 that を用いて、5～6文程度の英語で話すことができる。	仲間の意見を踏まえながら、既習表現を用いて、恵那市についての自分の意見をその場で考え、書こう、話そうとすることができる。

【学習の系統】中3: 自分の続けている部活動、趣味、習い事に関する情報や特徴などを明らかにして、現在完了形を含む英文を正しく用い、表情やジェスチャーで工夫しながら7～8文程度で話すことができる。

研究内容 2

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

- ・ **課題の焦点化**…どのような力を付けるのか，何を考え深めるのか課題を明確にする。
- ・ **学びの視覚化**…自分や仲間の学びが分かる思考の視覚化を工夫する。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

- ・ 「定着状況」の見届けと， **自らの伸びを実感できる授業終末の方法**を工夫する。

課題の焦点化

水と植物油を混ぜることで、
浮き沈みは体積の大きさが関係するのではないと**問題**を見
いだせた。

課題の焦点化

What is the problem in Ena?



Friday
June 15th
cloudy ☁
2:00

恵那市の人口の減り方をグラフで示すことで、恵那市の未来のことを本気で考えようとする意識がもてた。

課題の焦点化



どのような力を付けるのか，何を考え深めるのか，課題を明確にしたことで，**目的意識**をもって探究活動に取り組み，仲間と共に課題解決に向かう姿が生まれた。

学びの視覚化

のこぎりで切断する際の「視点」を図示することで、誰もがそれを意識して互いに教え合うことができた。



学びの視覚化



コミュニケーション活動に必要な情報を黒板に提示することで、積極的に自分の考えや思いを伝える姿を生み出すことができた。

学びの視覚化



根拠となる資料を投影機などで視覚化することで、生徒全員が見方・考え方を共有することができ、一人一人が課題解決に向かうことができた。

授業終末の工夫

40人で文集を作るのに
簡易紙1枚が2枚で書くことにした
ところ、64枚の原稿が集まった。
1枚書いた人と2枚書いた人の人数
は、それぞれ何人でしょう。

1枚書いた人をx人、2枚書いた人をy人とおく。

$$\begin{cases} x + y = 40 \\ x + 2y = 64 \end{cases}$$
$$\begin{array}{r} x + y = 40 \\ -x + 2y = 24 \\ \hline 3y = 64 \\ y = 24 \end{array}$$
$$\begin{array}{r} x + y = 40 \\ x + 24 = 40 \\ \hline x = 40 - 24 \\ x = 16 \end{array}$$

1枚書いた人をx人、2枚書いた人をy人とおく。

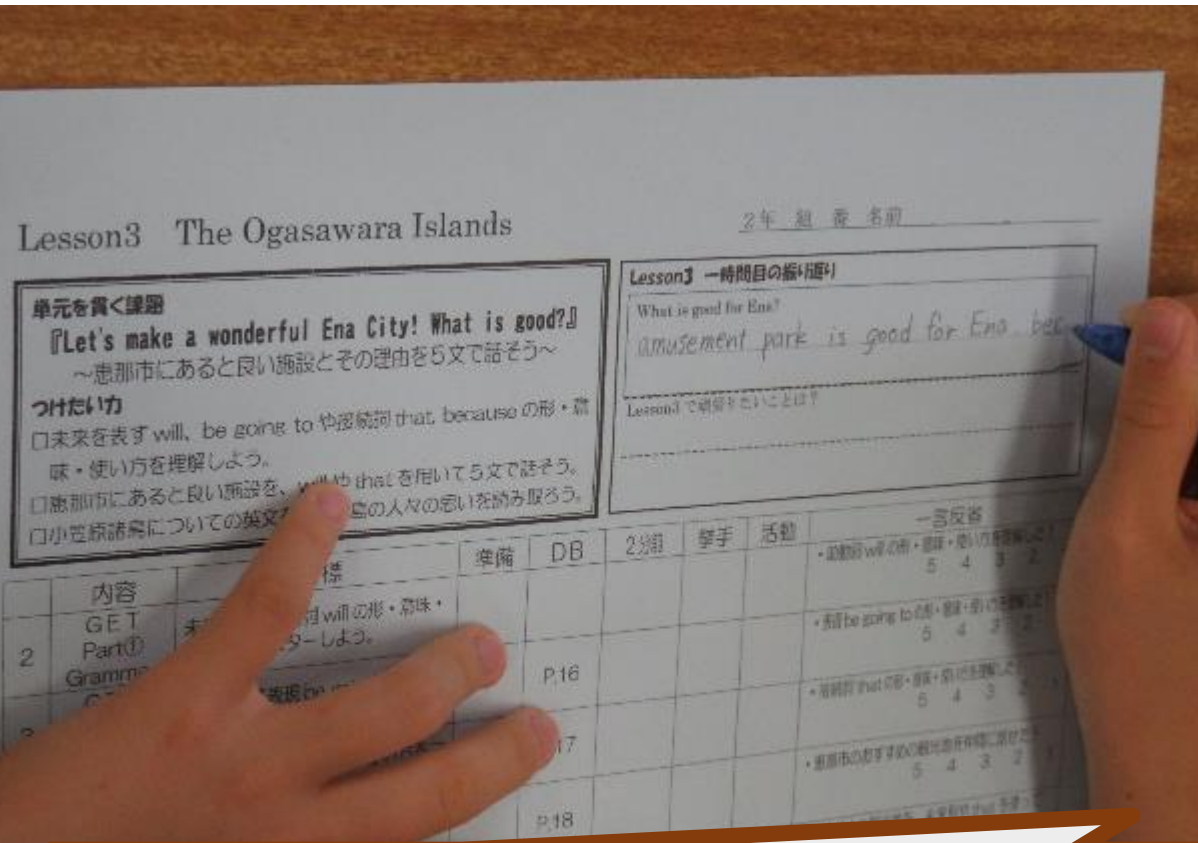
$$\begin{cases} x + y = 40 \\ x + 2y = 64 \end{cases}$$
$$\begin{array}{r} x + y = 40 \\ -x + 2y = 24 \\ \hline 3y = 64 \\ y = 24 \end{array}$$
$$\begin{array}{r} x + y = 40 \\ x + 24 = 40 \\ \hline x = 40 - 24 \\ x = 16 \end{array}$$

評価問題の解き方を生徒が説明し、それを全体で確かめ合うことで、学びの深まりを実感することができた。

授業終末の工夫

授業終末に相互評価の場面を設定することで、自己の考えの変容に気付くことができた。

授業終末の工夫



授業終末の問い返しや評価シートを用いることで自己の定着状況を確認したり，相互評価したりして，学びの深まりを実感することができた。

今後の課題

研究1について

- ・ **終末に何を指すかを明確にし，単元を計画する力を，教師がさらに付ける必要がある。**
- ・ 「習得」の時間と「活用・探究」の時間の**メリハリ**を付けた単元（題材）構成を考え，活動時間を確保する必要がある。

今後の課題

研究2-①について

- ・ 課題化から課題解決までの過程で、**生徒の活動の場と教師の出場を明確にする必要がある。**
- ・ 生徒の**つぶやきを授業に活かす工夫をする必要がある。**
- ・ 課題解決する中で、生徒に**自分が大切にしたいことを語らせる工夫が必要である。**

今後の課題

研究2-②について

- ・これまでの学習を活用し解決できないかを生徒に思考させる、**切り返し発問の工夫**が必要である。
- ・中間交流では、「つまずき」や「考え」を、まとめでは、「成果」や「喜び」を生徒が**自分の言葉で**言えるようにする必要がある。
- ・評価シートを活用して、**自分の願いや目的を宣言**してから活動し、**相互評価する工夫**が必要である。

今後の課題

設問 1 : 教科の学びを他に生かそうとしたか。

設問 2 : 総合的な学習の時間の学びを他に生かそうとしたか。

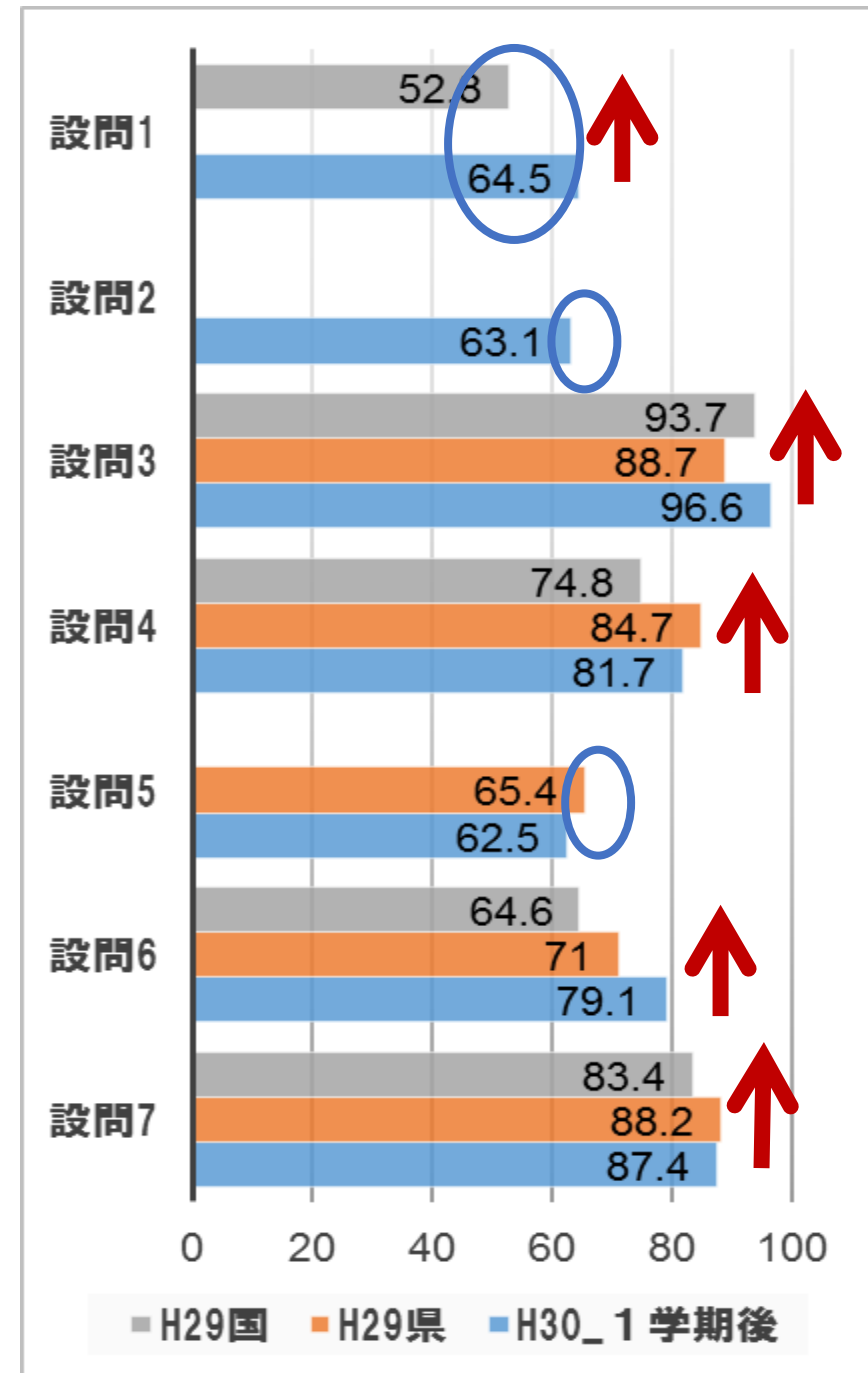
設問 3 : 授業で課題が示されたか。

設問 4 : 課題を立て、話し合いながら整理し、発表できたか。

設問 5 : 資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか。

設問 6 : 仲間と話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。

設問 7 : 学習内容をまとめ、振り返る活動を行っていたか。



**ご清聴ありがとうございました。
引き続き授業研究会をよろしくお願ひします。**

